③　学習指導案（公開授業で使用したもの）

テーマＩ：新時代に対応したＩＣＴを活用した授業　　公開日：９月２０日（火）

２ページ～　３ページ　　地理総合（教諭　佐伯　克幸）

４ページ　　世界史Ｂ（教諭　椎葉　理恵）

テーマ２：新時代に対応した評価との一体化を考えた授業　公開日：１１月７日（月）

５ページ～　８ページ　　地理総合（教諭　佐伯　克幸）

９ページ～１２ページ　　歴史総合（教諭　椎葉　光弘）

宮崎県立日向高等学校
教諭　　佐伯　克幸

地理歴史科（地理総合）　学習指導案	
単元名	生活文化の多様性と国際理解
内容のまとまり	B　国際理解と国際協力　　(I)　生活文化の多様性と国際理解
単元の目標	・世界の人々の特色ある生活文化を基に，人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解させる。また，世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解させる。 ・世界の人々の生活文化について，その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察させ，表現する力を養う。 ・生活文化の多様性と国際理解について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養う。

単元の評価規準		
知識・理解	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
世界の人々の特色ある生活文化を基に，人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。また，世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	世界の人々の生活文化について，その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。	生活文化の多様性と国際理解について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。

内容のまとまりと小単元、各次の内容と配当時間例		
内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間例
B国際理解と国際協力 (I)生活文化の多様性と国際理解	①世界の地形と人々の生活（６時間）	第一次　大地形と人々の生活 変動帯と人々の生活 安定地域と人々の生活 第二次　河川がつくる地形と人々の生活 海岸地形と人々の生活 様々な地形と人々の生活
	②世界の気候と人々の生活（７時間） （本時）	第一次　気温・降水と人々の生活 大気大循環と人々の生活 第二次　世界の植生と気候区分 熱帯の生活 乾燥帯の生活 温帯の生活 亜寒帯・寒帯の生活
	③世界の言語・宗教と人々の生活（２時間）	第一次　世界の言語と人々の生活文化 第二次　世界の宗教と人々の生活文化
	④歴史的背景と人々の生活（１時間）	第一次　歴史的背景が生活に与える影響
	⑤世界の産業と人々の生活（３時間）	第一次　人々の生活を支える農業の発展 第二次　人々の生活を支える工業の発展 第三次　グローバル化する現代の産業

指導と評価の計画（７時間）　（○…「評定に用いる評価」　●…「学習改善につなげる評価」）					
	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準等
第一次（２時間扱）	【ねらい】それぞれの気候要素がどのような気候因子の影響を受けているか理解し，気候要素が人々の生活にどのような影響を与えているのか考察する。				
	・それぞれの気候要素について，どのような気候因子の影響を受けているか，理解する。	●			●人々の生活が自然環境の影響を受け，多様性をもつことを理解している。（発問，定期考査）
	・降水が多い地域・少ない地域について，なぜそのような降水の特徴を示すのか，考察する。		●		●人々の生活について，自然条件との関わりに着目し，多様性の要因を多面的・多角的に考察し，表現している。（発問，google form，定期考査）
	・授業内容を踏まえ，疑問や感想をもとに，新たに問いを設定する。			●	●人々の生活の多様性について，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。（google form，定期考査）
第二次（５時間扱）	【ねらい】それぞれの気候帯の特徴について理解し，人々の生活とどのように関わり合っているのか考察する。				本時
	・それぞれの気候帯について，どのような特徴（気候区の種類，気温や降水の特徴，世界の分布，植生，土壌など）がみられるか，理解する。	●			●人々の生活が自然環境の影響を受け，多様性をもつことを理解している。（発問，定期考査）
	・それぞれの気候帯に暮らす人々の生活が，自分たちの生活と比較し，どのような共通点・相違点がみられるか，考察する。		●		●人々の生活について，自然条件との関わりに着目し，多様性の要因を多面的・多角的に考察し，表現している。（発問，google form，定期考査）
	・授業内容を踏まえ，疑問や感想をもとに，新たに問いを設定する。			●	●人々の生活の多様性について，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。（google form，定期考査）
	気候帯ごとに、上記の「知識」「思考」の過程を繰り返す。				
	・地球的課題と関連したある気候区で暮らす人々の写真を見て，どのような気候区の人々の生活の写真か，どのような地球的課題を示した写真かを考察し，生徒の生き方在り方について追究する。			○	○人々の生活について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。（google form，定期考査）

宮崎県立日向高等学校
教諭　　椎葉　理恵

地理歴史科　学習指導案	
単元名	イスラーム世界の形成と発展　「世界史B※現行」 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 イスラーム教も伝播と西アジアの動向　　（世界史探究※新）
単元の目標 （単元で育成する資質・能力）	①　諸資料を比較したり関連付けたりして読み解くなどして西アジアと地中海周辺の歴史的特質、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し構造的に理解すること。 ②　西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、11 イスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

具体的な評価規準		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
西アジアと地中海周辺の諸国家、イスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解すること。また、西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播を含めた諸地域の交流の広がりを構造的に理解すること。	イスラームの拡大、分裂を地図で確認することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。また、展開について、写真を活用しながら考察し、判断したり表現したりしていく。	知識・技能を率先して身につけようとしている。また、提示した資料から自ら情報を探し、活用している。さらには、本単元で扱った国や地域以外の動向について関心や学習への意欲が高まり、生徒同士で情報を交換している。

単元計画

次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一 二	1	**「アラブ＝ムスリム軍による大征服やイスラーム政権の成立を経て、西アジア・北アフリカの社会はどのように変わったのだろうか」** 【評価規準】・知識、技能を率先して身に付けようとしている。 ・イスラームを基盤とした国家の形成、発展について、背景や要因、経過や結果を理解している。 【評価方法】行動の観察、記述の点検、記述の分析	・Googleform を使用して小テストを受ける。 ・スライドを見ながら、ノートをまとめる。 ・教科書を読む。 ・準拠ノートについている地図の演習問題に取り組む。 ・問に対する答えを自分自身で考える。 ・問に対する答えをジャムボードを使用してグループで共有しまとめる。 ・まとめたことをプロジェクターに映しながら発表する。 ・授業の感想を書く。
	2	**「イスラーム教は、諸地域へとどのように広がったのだろうか」** 【評価規準】・自ら資料を読み解き、活用している。 ・イスラームの伝播の地図をもとに、諸地域の交流の広がりについて考察し、表現している。 ・本単元で扱った国や地域以外の動向について関心が高まっている。 【評価方法】行動の観察、記述の点検、記述の分析	
	3	**「時間軸からみる諸地域世界～イスラーム世界」** 【評価基準】・自ら資料を読み解き、活用している。 ・出来事の間の因果関係を探り、イスラーム世界の形成と発展、伝播などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【評価方法】行動の観察、記述の点検、記述の分析	

宮崎県立日向高等学校

地理歴史科（地理総合）　学習指導案	
単元名	地震・津波による災害
内容のまとまり	C　持続可能な地域づくりと私たち　　(I)　自然環境と防災
単元の目標	・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に，地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに，自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。また，様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能を身に付ける。 ・地域性を踏まえた防災について，自然及び社会的条件との関わり，地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現する。 ・自然環境と防災について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養う。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に，地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに，自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。また，様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能を身に付けている。	地域性を踏まえた防災について，自然及び社会的条件との関わり，地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現している。	自然環境と防災について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

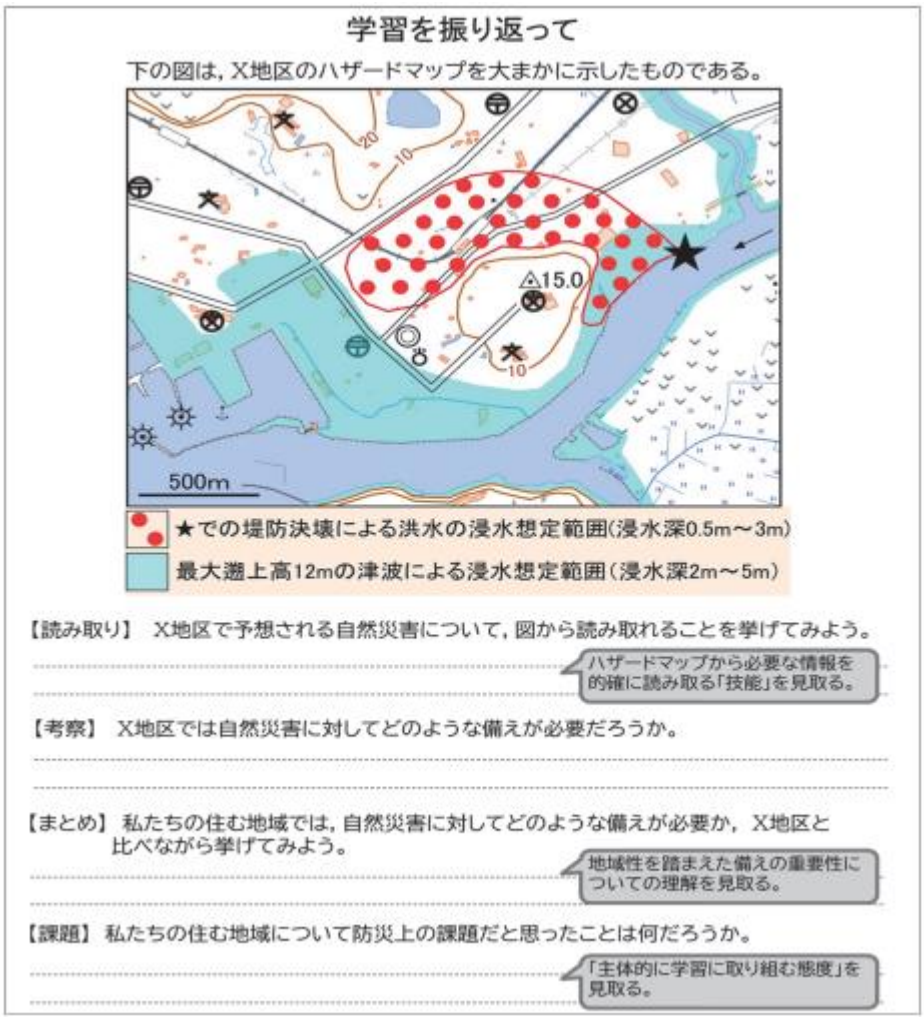
内容のまとまりと小単元、各次の内容と配当時間例		
内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間例
C 持続可能な地域づくりと私たち (I)自然環境と防災	①日本の自然環境（２時間）	第一次　日本の地形 第二次　日本の気候
	②地震・津波と防災（２時間）	第一次　地震・津波による災害　　※本時 第二次　地震・津波の被災地の取り組み
	③火山災害と防災（２時間）	第一次　火山の恵みと災害 第二次　火山と共生する地域の取り組み
	④気象災害と防災（２時間）	第一次　さまざまな気象災害 第二次　気象災害への取り組み
	⑤自然災害への備え（２時間）	第一次　減災の取り組み 第二次　被災地への支援

指導と評価の計画（２時間）　（○…「評定に用いる評価」　●…「学習改善につなげる評価」）					
	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準等
【単元全体に関わる問い】身近に起こりうる様々な自然災害にはどのようなものがあるだろうか。また，それぞれの自然災害はどのような被害をもたらし，備えるためにどのような取り組みが必要なのだろうか。					
第一次（1時間扱）	【ねらい】身近に起こりうる様々な自然災害についてハザードマップを活用しながら考察し，本校生徒の多くが身近に感じている地震・津波について，地震の種類や特徴を理解する。 【学習課題】身近に起こりうる様々な自然災害にはどのようなものがあるだろうか。また，地震には，どのような種類があり，どのような特徴がみられるのだろうか。				
	・学校行事（紺青ウォーキング）のコースを地形図や地理院地図で確認し，自然災害が起きうる場所を考え，地図中に記入する。		●		●既習事項等を踏まえ，どのような災害が起こりうるか考察している。（話し合い，作品，定期考査）
				○	○学習する前に，どのような自然災害を想起するか，調査する。（作成地図を写真にて保存）※1
	・ハザードマップの読図を通して，さまざまな自然災害が起こりうることを確認する。	●			●ハザードマップの読図を通して，身近に様々な自然災害が起こりうることを理解している。（話し合い，作品，定期考査）
	・地震の種類や特徴について，既習事項や教科書等を活用して理解し，ノートにまとめる。	●			●地震の種類や特徴がどのようなものか理解している。（ノート，定期考査）
第二次（1時間扱）	【ねらい】地震・津波による災害による被害や防災・減災の取り組みに関して，ここ 30 年で発生した２つの震災を例に理解し，身近な地域における防災・減災の取り組みについて考察する。 【学習課題】地震・津波による災害は，２つの震災ではどのようなもので，震災後にどのような防災・減災の取り組みが行われているのだろうか。				
	・地域によって異なる，地震の際に発生する災害について，既習事項や教科書等を活用して理解し，ノートにまとめる。	●			●地震の種類や特徴がどのようなものか理解している。（ノート，定期考査）
	・東日本大震災と阪神・淡路大震災の状況と，その後の防災・減災の取り組みについて，既習事項や教科書等を活用して理解し，ノートにまとめる。	●			●地震の種類や特徴がどのようなものか理解している。（ノート，定期考査）
	・日向市を例に，２つの震災後に行われた防災・減災の取り組みを調べ，さらにどのような対策が必要か考察する。		●		●自分たちの住む地域の防災･減災の取り組みを理解し，現在の課題を設定して課題解決に向けた方策を考える。（google form，定期考査）

※１　「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

① 本単元の初期の時期の「防災に対する考え方」を、地図を写真に残すことで確認する。
② 本単元の最後の時期の「防災に対する考え方」を、定期考査、ワークシート等で取り組ませ、①と比較して考え方の変容を確認し、評価する。
③ ②の評価問題（ワークシート）は、初見の地域の地図を提示し、どのような自然災害が起こりうるか、どのような防災の視点が必要か、改めて自分たちの地域の防災の課題は何か、記述させる。

【③のイメージ　「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 地理歴史 p.69～71】


学習を振り返って

下の図は，X地区のハザードマップを大まかに示したものである。

【読み取り】 X地区で予想される自然災害について，図から読み取れることを挙げてみよう。

ハザードマップから必要な情報を的確に読み取る「技能」を見取る。

【考察】 X地区では自然災害に対してどのような備えが必要だろうか。

【まとめ】 私たちの住む地域では，自然災害に対してどのような備えが必要か，X地区と比べながら挙げてみよう。

地域性を踏まえた備えの重要性についての理解を見取る。

【課題】 私たちの住む地域について防災上の課題だと思ったことは何だろうか。

「主体的に学習に取り組む態度」を見取る。

例５：「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒ア，生徒イの記述例

ア 【課題】私たちの住む地域について，防災上の課題だと思ったことは何だろうか。
X地区と同様に，私の住む地域でも，同じ標高で予想浸水深が違うのはなぜかと疑問に思った。地図だけでは分からない部分もありそうなので，ぜひ現地調査をしてみたい。

イ 【課題】私たちの住む地域について，防災上の課題だと思ったことは何だろうか。
高齢化の進む私の町で，自分は避難できても，自力で避難できない人の安全をどう確保したらよいか，地域の一員としてこれから考えていきたい。

例６：「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例

【課題】私たちの住む地域について，防災上の課題だと思ったことは何だろうか。
洪水やガケ崩れが起こりそうな所には，はじめから近寄らない。

宮崎県立日向高等学校

【地理歴史科／科目：地理総合】　教諭　佐伯　克幸

１．日時　　令和４年１１月７日（月）２校時

２．場所　　１年１組教室

３．対象クラス　　普通科　１年１組　３３名

４．本時の目標

身近に起こりうる様々な自然災害についてハザードマップを活用しながら考察し，本校生徒の多くが身近に感じている地震・津波について，地震の種類や特徴を理解する。

５．展開

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
確認テスト 5分	○週末のレポートに関する確認テスト	○google formを利用し確認テストを受ける。	○正答率が低い問題があれば補足する。 ○社会情勢（ウクライナ問題）との関連にも触れる。	
導　入 15分	○ハザードマップ読図への導入	○学校行事（紺青ウォーキング）のコースを，地形図上でトレースする。 ○コース上で自然災害が起きうる場所を確認し，地形図上に記入していく。	○グループ活動を行う。その際に，机間指導を行い，正解の確認をしていく。 ○グループ活動を行う。その際に，机間指導を行う。 ○地理院地図のみ閲覧可とする。 ○完成後は，タブレットで写真に撮り，共有ドライブへ入れさせる。その後，各班の作品を投影し，共有する。	思考 (定期考査) 主体A (作品)
展開1 15分	○ハザードマップ読図 ○身近に起こりうる様々な自然災害	○日向市のWeb版防災ハザードマップを読図し，各班の作品を修正する。 ○修正した箇所を，各班発表する。 ○教科書p.199を活用する。	○グループ活動を行う。その際に，机間指導を行う。 ○日向市のWeb版防災ハザードマップの各災害について，グループ内で分担して閲覧する。 ○地震・津波の災害だけでなく土石流・液状化・土砂流出の可能性がある地域があることに注目させる。 ○日本では様々な自然災害が起こりうることを確認する。	知識 (定期考査)
展開2 10分	○地震の種類と特徴	○教科書の本文で確認しノートでまとめる。 ○教科書の資料１・２の読図を行い，日本の地震の特徴を確認する。	○既習事項（地形分野や中学社会・一般常識）も確認しながら学習を進める。 ○資料１は熊本地震にも注目させる。資料２は、地震の種類による震源の深さの違いを読み取らせる。	知識 (定期考査)

宮崎県立日向高等学校

地理歴史科（歴史総合）　学習指導案	
単元名	近代化が進む日本と東アジア
内容のまとまり	Ｂ　近代化と私たち　　⑵　国民国家と明治維新
単元の目標	・18 世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。また、列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察させ、表現させる。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察させ、表現させる。 ・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようする態度を養う。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
18 世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。また、列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。	国民国家の形成の背景や影響、帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴や社会の変容帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

内容のまとまりと小単元、各次の内容と配当時間例		
内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間例
Ｂ近代化と私たち ⑵国民国家と明治維新	①新政府の誕生（１時間）	第一次　新政府による中央集権化 第二次　「日本国民」の創出 第三次　岩倉使節団とその影響
	②近代国家を目指す日本（１時間）	第一次　立憲体制への道のり 第二次　憲法発布と帝国議会 第三次　日本の国境画策
	③日本と清の近代化と日清戦争（１時間）	第一次　産業革命の始まり 第二次　清の近代化政策 第三次　朝鮮の開国と混乱 第四次　日清戦争と東アジアの変容
	④列強の中国進出と日露戦争（１時間）	第一次　清朝の政治改革の試み 第二次　日露戦争　※本時 第三次　日本の条約改正と産業革命の進展
	⑤日露戦争が与えた影響（１時間）	第一次　日露戦争の世界への影響 第二次　日本の対外進出 第三次　清朝崩壊と辛亥革命による分裂の中国

指導と評価の計画（２時間）　（○…「評定に用いる評価」　●…「学習改善につなげる評価」）					
	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準等
【単元全体に関わる問い】 日清・日露戦争によって日本の国内・国外の情勢はどのような変化がみられたのだろうか。					
③（1時間扱）	【ねらい】これまでの学習の振り返りや教科書等を活用し，日清戦争の概要や背景、戦争が起こった原因について考察し、理解する。 【学習課題】 日清戦争がどのような背景・原因で起こったのだろうか。				
	・日清戦争がどのような原因で起こったのか、その原因は何か，教科書等を活用して理解し，ノートにまとめる。	●			●日清戦争についての概要や背景を理解している。（話し合い，ノート，定期考査）
	・資料図の読図を通して，日清戦争が起こった背景・原因について教科書等を活用して考察する。		●		●日清戦争が起こった原因を考察している。（話し合い，ノート，定期考査）
	・日清戦争が起こった原因とその後の日本と清・朝鮮・列国との関係をどうなったかをまとめる。			○	○③を学習する前にどのような考えを持っているか，調査する。
④（1時間扱）	【ねらい】これまでの学習の振り返りや教科書等を活用し，日露戦争の概要や背景、戦争が起こった原因について考察し、理解する。 【学習課題】日露戦争がどのような背景・原因で起こったのだろうか。				
	・前時の日清戦争について教科書、映像等で復習する。	●			●日清戦争について理解している。（話し合い，ノート，定期考査）
	・日露戦争について教科書・ノート等を活用して理解する。	●			●日露戦争について理解している。（話し合い，ノート，定期考査）
	・google class room の日露戦争に関する映像（音声無し）を視聴して，学習した内容を踏まえて考察し、映像の説明内容を考える。		●		●日露戦争に関する映像の説明内容を教科書･ノート等を使用してまとめている。（グループ活動，定期考査）
	・映像の説明をグループで話し合い決定し、映像撮影を行う。			●	●課題解決に向け，どのような取り組みが求められるか，主体的に追究，解決しようとしている。（グループ活動）
	・音声ありの映像の説明を視聴し、その後、各グループで撮影した動画と比較しながら評価を行う。			○	○各グループが正確に評価できている。

宮崎県立日向高等学校
【地理歴史科／科目：歴史総合】　教諭　椎葉　光弘

１．日時　　令和４年１１月７日（月）３校時
２．場所　　１年２組教室　総合１１教室
３．対象クラス　　普通科　１年２組　３４名
４．本時の目標

これまでの学習の振り返りや教科書等を活用し，日露戦争の概要や背景、戦争が起こった原因について日清戦争と比較しながら考察し、理解する。

本時の指導計画

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	資料･評価の観点
導 入 5分	○前時の日清戦争について復習する。	○グループでの話し合いや映像視聴を行って確認する。	○グループでの話し合いの際に机間指導を行う。 ○日清戦争の背景･原因に確認する。	
展開１ 10分	○本時の学習課題の確認 ○日露戦争について教科書を活用してノートにまとめる。	○グループでの話し合いでお互いの意見の確認をする ○教科書の本文で確認しノートでまとめる	○グループでの話し合いの際に机間指導を行う。	
展開2 25分	○日露戦争に関する映像の視聴 ○日露戦争に関する映像の説明内容を考える。 ○映像に説明内容を加えて発表する。	○google class roomの日露戦争に関する映像を視聴する。 ○google class roomの日露戦争に関する映像を視聴しながら説明内容を考える。 ○映像に説明内容を加えて発表する様子を撮影する。	○日露戦争の背景･原因や条約の内容（ポーツマス条約）に着目しながら映像を観るように指示する。 ○映像で登場する登場人物（与謝野晶子、東郷平八郎）に着目させる。 ○日露戦争について約3分間説明するように指示する。	思考 判断 表現
まとめ 5分	○学習課題の振り返り	○音声ありの映像を視聴し、グループで思考･判断して説明を加えた映像と比較しながら確認し、評価する。	○音声ありの映像とグループで思考･判断して説明を加えた映像を比較する際に共通点と相違点に着目させながら評価させる。	

歴史総合　評価シート（思考力・判断力・表現力）

思考・表現　（グループ評価）

１．各グループで作成した動画を視聴して以下の内容が説明できていればチェックしなさい。

□ ①ロシアはヨーロッパからバルチック艦隊を日本に送った。
□ ②日本は朝鮮半島に進出した。
□ ③東郷平八郎が連合艦隊を指揮して、ロシアのバルチック艦隊と対馬沖で戦闘をした。
□ ④日本はロシアに勝利して国際的に認められた。
□ ⑤１９０５年にアメリカのポーツマスで講和会議が行われ、ポーツマス条約が結ばれた。
□ ⑥ロシアが勢力範囲（植民地）を拡大するために中国東北部（満州）に進出した。南下政策でも可。
□ ⑦植民地を求める西洋の国々が東アジアに進出した。
□ ⑧与謝野晶子が反戦論を唱えた。
□ ⑨ポーツマス条約により、朝鮮半島における日本の優越権などを決めた

判　断　（個人評価）

２．上記の内容を３つのグループに分けなさい。

第１グループ	第２グループ	第３グループ

表　現　（個人評価）

3．各グループに分けた理由を述べなさい。

第１グループ	第２グループ	第３グループ
理由	理由	理由

思考・表現　（個人評価）

４．日清戦争と日露戦争の共通点と相違点を書き出しなさい。

・共通点

・相違点

第（　　班）

１学年　（　　）組　（　　）番　氏名（　　）